

令和7年度 伊那市立新山小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 心豊かな 新山っ子	◆考える力の活性化 子ども達の力を捉え、学校・家庭・地域が相互に高め合う新山教育学校・家庭・地域から学び、学校・家庭・地域を支え、元気にする新山っ子を育てる。
	今年度の重点目標
	(1)考えよう ・自ら考え、計画し、実践できる力の育成 ・自分の考えを伝え合い、広げ深め合う学習活動の重視 ・粘り強く最後までやり抜く力の育成 ・自戒自律の心と「思いやり」の心の育成
	(2)やってみよう ・思考力・判断力・表現力の育成 (伝え合う)(目標設定・自立)(柔軟性) 「わかった」「できた」喜びのある学習 ・体験を通した学び・地域に出て地域とふれ合い新山を知る ・暮らしのなかの食・日常的な農業体験 ・交流や集団行動において相手意識を持って進んで活動 ・ICT機器の積極的な活用 ・朝マラソンなど体力向上に向けての継続的な試み
	(3)つながろう ・心を届ける挨拶、返事、歌声の奨励 ・伝え合うことによるつながり ・聞く、話す、対応することの重視、積極的な発表、発言 ・支え合える仲間関係の育成・学年を超えた仲間づくり ・保育園や地域の人達との交流 ・新山の良さ、自分たちの学びの発信

総合評価	
成果と課題	評価
○開校150周年を迎えた今年度、「たくましく心豊かな新山っ子」を育てるために、重点目標「考えよう・やってみよう・つながろう」を掲げて取り組んできた。「考えよう」では、子どもが互いに思いを伝え合うことで、人との関わりを広げ、深める姿をめざし、友達の話していることをまずは受け止めたうえで自分の意見を話すことを大切にしてきた。「やってみよう」では、地域の講師の協力を得ながら、体験を重視した行事や授業を行った。「つながろう」では、朝のあいさつや児童会スローガン(「青空」・明るく笑顔できれいな心を持った新山小学校)をもとに、学年を超えたつながりや地域の人や他の学校とのつながりに取り組んだ。CS運営委員会や同窓会など地域の方の協力を支えに、充実した教育活動を展開することができ、子どもたちも成長してきた。	
改善策・向上策	
(1)全校児童の個別の指導計画を作成し、職員の児童一人ひとりに対する共通理解をより深めてきた。その共通基盤をもとに自分の思いを伝え合う「月目標ふりかえり集会」では、集団の一員としてよりよい学校生活を自分たちの手でつくりたいとする活動を通して、人との関わりを広げたり、深めたりする力を伸ばしていった。日々の授業の見直しを行い、「対話的な学び」を大切に考え、児童が繋ぎ言葉を使い、互いの意見の相違や多様な考え方を大切にしながら、双方向の話し合いの充実に取り組んできた。	B b
(2)「暮らしのなかの食」の取り組みでは、カレーパーティー・焼きいもキックベース大会など自分たちで育てた物をいただく行事が根付いている。そこにキノコ採り、竹の子採りなどの体験も取り入れた行事が実施できた。学級の畑や田でとれた物を使っての調理実習など暮らしの中に食が息づいている。総合や生活科の活動を通して地域の方を講師にお迎えし、地域の方と触れ合いながら作物を育てる喜びを味わった。地域素材の教材化として、1年生(竹を使った水鉄砲づくり)、2年生(かまへびの飼育、豆腐作り)、3年生(新山川の石を使ったピザ窯作り)、4年生(地域講師にお願いして地域の歴史や文化巡り)、5年生の白毛餅作り、6年生(校庭周辺の樹木調べ)など積極的に新山ならではの活動に取り組めた。今年度は、4年生、2年生がICTを活用し、Zoomやスクールタクトを使って、手良小学校と遠隔授業や遠隔交流を行った。	A a
(3)新山保育園や地域の人達との交流(カレーパーティー・サツマイモ植え掘り、焼きいもキックベース大会、新山大運動会、新山フェスティバル)を通して、相手意識を培うことができた。保育園との交流や新山フェスティバルに向けた製作活動や販売活動、遊びコーナーでの取り組みを通して、相手に合わせた対応や工夫を意識して活動することができた。小小連携で、4年生と2年生が手良小学校や富県小学校と直接交流やICT機器を使った遠隔授業や遠隔交流の活動に取り組む姿が見られた。今年度より、4年生が手良小学校と一緒に長野社会見学に行くことになった。	A b

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○児童の実態や本校のよさを生かした教育課程の編成	○学校の日課や行事などは子どもたちにとって適切なものであったか。
		○学校の教育活動への理解、伝達	○学校要覧・学校便り・学級便り・HPなどにより、教育内容や子どもたちの様子を保護者や地域にわかりやすく伝えたか。
	学習指導	○児童が主体的に取り組む授業の構築	○子どもたちが意欲を持ち、互いに学び合いながら、主体的に取り組む授業を展開できたか。
		○児童の学習習慣の定着	○学習習慣への意識を高め、身に付けることができたか。
生徒指導	○児童の心身ともに健全な生活の保障	○子どもたちは元気に登校し、楽しく学校生活を送ったか。	
	○思いやりのある豊かな人間関係	○思いやりのある豊かな人間関係。	
学校運営	安全	○児童の安全確保	○下校指導、交通安全教室等により子どもの安全への意識を高め安心安全を守ることができたか。
		○施設備品点検管理	○管理分担の安全点検を確実にし、子どもの目線に立った施設備品の管理をすることができたか。
	地域との連携	○地域の方と連携し、PTA活動や各種の地域行事ではお進んで協力できたか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○4年生の社会見学を手良小学校と一緒に同じ見学場所に行くなど、事前の打ち合わせを含め、手良小学校と子どもたちと交流を深めることができた。 ○先生方が教材研究や校務分掌の仕事に充てられる時間を確保したい。	A a	○水曜日日課(そうじ、ドリルなしの日)を月曜日にも設定する予定。 ○今後の児童数の減少を憂慮し、臨海学習や修学旅行も手良小学校と合同で行えないか検討していきたい。
○学校便りでは、学校の様子を分かりやすい内容にまとめて、地域の人に知らせることができた。学級通信も全学年が毎週定期的に発行し、児童の様子や予定等を知らせた。また、HPは、できるだけ最新の情報を発信してきた。今年度も「新山小ライジングプラン」を校長講話や学校便りを通して、地域や保護者と共有した。	A a	○HPだけでなく、各クラスでも、新山の良さや学びを、地域や地域外に発信していく取り組みをしていきたい。学級便りや学校便りを定期的に発行し、情報公開を行い、地域の皆さんとの連携を深めていくようにする。また、新山小ライジングプランの取組の様子を確認していく。 ○市教委とも連携して、新山小学校の魅力を外部に発信したり、学校見学がいつでもできるよう公開を呼び掛けたりしていく。
○全校研究テーマ「自分の考えを広げたり深めたりする力を育む指導・支援のあり方」今年度、手良小との遠隔授業を通して、クラスの友だちとは異なる価値観に触れ、多面的・多角的に物事を考える機会が生まれる可能性を期待した。その結果、子ども達は、多様な考え方に触れることで、自分の考えを広げ、深めることができた。 ○子ども同士の双方向の対話的な場面を充実させていきたい。	A b	○2校の担任が授業展開や支援、ICT活用の場面や方法等の打ち合わせを行い、多くの時間的な努力を必要とした。そのため、今年度の成果を生かして、できるだけICTを有効的に使って行えるような授業の仕方のマニュアルを残していきたい。 ○子ども達にとって、予想される子どもの反応から子どもの価値を揺さぶる問い返しをし、子ども達が双方向の対話ができる場面を日々実践していきたい。
○PTAや家庭と連携してノーテレビ・ノーゲームデーを年6回に行い、各家庭で目標を設定しノーテレビやノーゲームに取り組むことができた。 ○「家庭学習の手引き」を作成し、学級懇談会などを通じて家庭での学習習慣定着を呼びかけたが、子どもたちの自主的な家庭学習の取り組みが課題として残った。	B b	○PTAや家庭と連携し、ノーテレビ・ノーゲームデーの推進を行う。また、家庭学習に自ら取り組めるように、その日学んだことを宿題に出したり、授業の終末段階でその日の宿題についてふれたり、高学年は、自学ノートを行ったりするなど、子ども達が進んで取り組むための工夫をしていく。
○多くの児童が楽しく学校生活を送ることができた。授業だけでなく学校行事に向けての取り組みなどが充実し、子どもが張り合いを持って登校する気持ちにもつながった。 ○職員会議や学年会では、毎回「気になる児童の様子」の時間をとり、子どもの状況について細かく情報交換を行った。	B b	○全職員が全児童の担任であるという共通理解のもと、個々の児童の心身の状態に気を配り、気になることは即座に職員間で情報交換を行い、一人ひとりの児童が楽しい学校生活を送れるようにする。必要に応じて、保護者面談も行う。 ○子ども相談室、SC、SSW、「ここ駒」、市教委、伊那養護学校など関連機関とも連携して子ども支援にあたる。
○外部講師に来ていただき、「子どもの発達障害」の職員研修を行い、従来の教育スタイルについて行かない子ども達への支援の仕方について学ぶことができた。 ○児童会活動の「プレイザゲーム」や「保育園児との交流会」で、上の子どもたちが下の子どもたちの面倒をみる伝統が位置付いている。	B b	○児童会活動との連携を図るとともに、児童や保護者にアンケートを行い、いじめの早期発見に努めるとともに、発見されたいじめや子ども同士の意識の違いに対しては、SC、SSWなど外部機関と連携しながら、全職員で協力して解決に努める。 ○児童理解のための研修を継続していく。
○通学路の工事、ちょっとした異変も職員室においてすぐに情報共有し、職員で児童の集団登下校が安全にできるように配慮した。 ○地区子ども会で、登下校について、振り返りを通して気をつけたいことや直したいことを意識し、安全に登校するために必要なことやルールを守ることに考えられた。	A b	○気をゆるめることなく安全対策を図っていく。通学路の安全が確保できるように見守り隊の方との連携をさらに図っていく。 ○通学路の工事、ちょっとした異変も職員室においてすぐに情報共有し、職員で児童の集団登下校が安全にできるように配慮していく。
○毎月の安全点検により校舎内外の危険に目を配った。 ○修理箇所は、教育委員会に対応をお願いしたり、校務技師が即座に対応し修理したりした。	A a	○職員による毎月の安全点検を担当場所を変えるなど工夫して確実にを行い、危険箇所の早期発見に努め、早めに対処していく。 ○必要に応じて、市教委とも連絡をとり危険箇所の改善を早めに進めていく。
○PTAや保育園の協力を得て準備し、新山大運動会を実施できた。 ○CS運営委員の皆様や同窓会の役員のお力をお借りし、校庭や校庭の周りの整備や、郷土館の整備を行うことができた。 ○新山フェスティバルでは、地域の人達と共に地域のお祭りを盛り上げることができた。 ○地域の方のご協力により、開校150周年記念事業が滞りなく実施できた。	A a	○地域の各種団体や地域の皆さんの協力をうけて、地域と連携した活動を進めて、たくましく心豊かな新山っ子を育てていきたい。 ○地域に「していただく」だけでなく、児童と地域が協働で取り組める活動を模索していく。

携	○地域で学ぶ学習	○地域素材を生かし、子どもたちが地域の自然や人から学ぶ学習ができたか。	○竹の子採り、ハッチョウトンボの観察会、キノコ採り、地域探検、しめ縄作りなどを通して、地域の方から地域の自然や伝統文化について学んだ。 ○新山探検・新山川に出かけ、自然とふれあう活動を行った。竹の子採りや秋の自然に親しむ日では、地域の人達と共に竹の子やキノコを自然の恵みに感謝していただいた。	A a	○地域を知ることから始め、地域の「人・もの・こと」などから学び、心にするさを創る学習に各学級で取り組めるようにしたい。 ○新山小学校CS運営委員会を年5回開催して、その中で各学級が取り組んでいる総合、生活科や教科学習に対する支援方法を検討していただきたい。
	○職員の資質向上、研究・修養	○自己課題や研修に積極的に取り組み、力をのばすことができたか。	○外部講師（県教委、警察、学校医）による研修会、講演会を行い、不審者対応に関わった実践や新山の文化や歴史を学んだり、教師としてのあり方や人間性の向上を求めたりしながら取り組んできた。	B b	○教員としてよりも人としての研修も大切にしてきた。ICT教育を含めた研修を来年度も年間計画に位置づけ、職員一人ひとりの力量を高め、人としての在り様を学んでいく。 ○外部の研修にも積極的に参加できるように声かけをしていきたい。
	○職員の非違行為防止	○非違行為への理解を深め、非違行為を絶対行わないという気持ちをもつことができたか。	○年間計画に基づいて資料や討議の形態を変えるなどの工夫をしながら研修を継続的に行った。	A a	○具体的な事例や周囲の人への影響などを繰り返し扱うことで、より自分自身のこととして考えられるような内容の研修を行い、本校職員が非違行為を行うことがないようにする。